令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 本庄小学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○未回答が少なく、前向きに取り組んでいる。 ○漢字「短い」の正答率が93%と高い。書き取り会の取組の成果が出た。 ○文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く力がついている。	・資料を読み取る問題など、多様な問題に慣れる必要がある。 ・条件に沿って書くことや、引用や要約の練習の必要がある。問題の条件の要点を捉えることも必要。 ・資料を根拠にして書く力をつけたい。 ・日常的に読書量の多い子は回答率が高い。読書の必要性がある。
	課題	●資料をもとに、□に入る文章を推測したり、画像と言葉を関連づけて考えるなどの読み取る力が弱い。 ●条件作文の正答率が2割と低く、どの条件も満たしていない児童が26%いた。	
算数	成果	○小数の大小の正答率が高い。 ○基本的な計算、選択式の問題はできている。	・計算会などを使って、基礎基本を定着させる。 ・低学年から実物を使って考えるようにする。 ・書いて説明する機会をつくる。(口頭説明の後、書いてまとめる) ・まとめの文章の型を作り、その型にはめて書くようにし、身につける。 ・資料を整理する力をつける。(データ処理)
	課題	●分数、小数のくり下がりの計算(5－3.76)の正答率が低い。小数の大小はわかっていても、計算になると間違えている。 ●密度、倍の概念のイメージができていない。 ●数の量の感覚ができていない。 ●説明が苦手。(分数、荷物の問題、指定された言葉や数字を使って説明する問題) ●表を読み取ることができていない。	

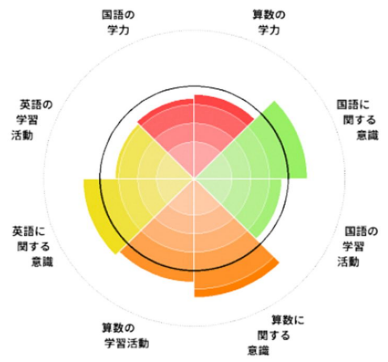
(2)質問紙調査から見られた傾向

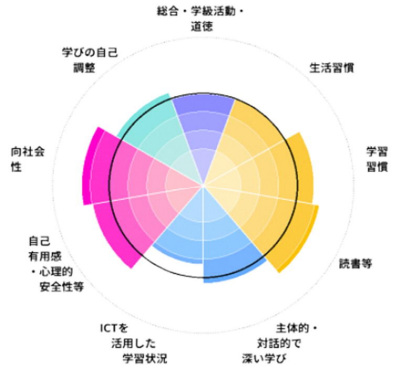
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○家庭学習が習慣化されている。 ○話し合い活動や課題解決の意欲が高く、主体性が育っている。 ○地域貢献への意欲が高い。	・にこにこチャレンジ週間の項目に、ネット利用関連の項目を入れる。(ネット利用を短くするために、睡眠の大切さを保護者児童に周知し、就寝時間を早くすることや、読書やお手伝いなど親子で過ごす項目を作ってはどうか。 ・学校外での読書の推進。読みたい本と出合う工夫。 本を読まないとできない宿題を出す。(ブックトーク、ビブリオバトル、本を読んでからの新聞づくりなど。)
	課題	●SNS、ネット視聴が長時間の児童が9割を超える。 ●読書をほとんどしていない。学校が終わってから家庭で過ごす時間が長いが、読書よりもネット利用の時間となっている。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	本校の研究主題「自ら考え、学び合うこどもの育成」をもとに、国語科の校内研究授業を実施する。図書館教育とも関連付けながら家庭でも児童が主体的に読書できるようにすることも一つのねらいとしたい。また、各教科において自らの考えを表現する場を意図的かつ効果的に取り入れた授業づくりを行うことによって、本校児童の課題解決を図っていきたい。さらに、にこにこチャレンジ週間の項目を改善実施することで、家庭での生活や読書習慣の向上を進めていきたい。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)





【受検者数】

15 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

